

## Cross-cultural Engineering Project (CEP)の実施(ポルトガル)

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2022年07月06日 ～2022年07月14日	ポルトガル	リスボン新大学 キングモンクット工科大学ト ンブリ校 スラナリー工科大学	・システム理工学専攻、機械 制御システム学科、環境シ ステム学科 ・学部4年生、修士1年生、修 士2年生	(芝浦工業大学) 学生24名、学生バイト3名、 教員2名 (リスボン新大学) 学生4名 (キングモンクット工科大学ト ンブリ校) 学生3名、教員1名 (スラナリー工科大学) 学生5名	市川 学(環境システム学科)、 渡邊 大(機械制御システム学 科)



図1 グループワーク活動

世界3拠点で開催しているCEPのCEP@FCT/UNLを、ポルトガルのリスボン新大学理工学部、FCT/UNLで対面実施をした。参加国は、ポルトガル、タイ、日本の学生36名と企業からの聴講者2名、計38名である。CEP@FCT/UNLは、イノベーション創出をテーマとしたPBLで、デザインプロセスとプロトタイプングプロセスで構成されている。デザインプロセスは、目的・ニーズからの要求品質展開、感動把握プロセスによる感動品質の導出、QFDマトリックスの作成、QFDマトリックスを用いた矛盾解決を経て仕様を策定する。プロトタイプングプロセスでは、デザインレビューを経て練られたアイデアに基づいてビジネスモデルを作成するプロセスです。ここで練られたビジネスモデルが最終発表で提案された。結果は、4班のImprove Communication between Govt. and Peopleが1位、5班のReduce Lisbon cigarettes on the street and make them cleanerが2位となった。

過去2年間行ったオンラインでのCEPとは別次元の貴重な経験を学生にもたらしたことは特筆すべきことであろう。改めてCEPはそれぞれの開催国で対面にて行うことが一番であると実感した。



図2 グループワークの風景



図3 集合写真



図4 FCT/UNLの先生とTA



図5 企業からのプレゼンテーション



図6 ウェルカムボード